

2025/3/16 「王道展開」(レントⅡ) ルカ23:6-12 さ138 せ614(659)

今年もレント(受難節)を迎えました。別れと出会いの季節でもあります。たった一度きりの人生の中で、出会えたことへの感謝と、はじめて出会う人への尊敬を、大切にできたら良いですね。佐々木先生が、無事に帰国されることを祈りましょう。

悪党中の悪党

ヴィランという聞きなれない言葉を、最近知りました。「悪者役」という意味です。シンデレラの継母、水戸黄門の悪代官、といった役どころです。今朝のヘロデ王は、かのヘロデ大王の息子であり、バプテスマのヨハネを殺害し、兄嫁を奪って自分の妻にする、痺れるような「生粋の悪党」です。ここまで来ると、律法学者や総督ピラトとは違った、突き抜けたあくどさに、憎みきれないような気持ちがわいてきます。それはきっと、利己心や猜疑心、妬みや優柔不断といった、ヘロデ王と同じ匂いが、自分自身の中にあることを、嗅ぎとるからではないでしょうか。

ヘロデ王は、イエス様に会って「非常に喜んだ」と書いてあります。でも、それは下心です。著名人に会って、興奮する人間の心理です。有名人を生で見ても、奇跡の目撃者として、自慢しよう、自分の名を高める材料にしよう、という、あくまで自分中心の態度です。それは、後半の「この日、ヘロデとピラトは仲がよくなった」という結末で証明されます。思い通りにならないとわかった途端、態度は一変、侮辱し、あざけり、あっさり抜け目なく、提督ピラトと手を結んだからです。

「共通の敵を作って味方にする」この方法は、古今東西の王道展開です。そんなヘロデ王は、結局正式な王位を認められず、最後は地の果てガリアに流刑にされました。

主イエスの沈黙

ところで、イエス様はどうしてヘロデ王には沈黙したのでしょうか。それは、人間の策略や願望を超えた、壮大な神様のご計画がこの世界を動かしているということを証しするためでした。神の御心が成し遂げられるという、今年の聖句とつながります。

同じルカによる福音書の冒頭に、羊飼いの場面があります。ヘロデ王が最初は非常に喜び、最後は侮辱し追い返したのに対して、羊飼いたちは正反対です。最初は非常に恐れ、それから喜びに溢れ、賛美しながら人々に、救いを伝えました。

一時的には、イエス様にとって、沈黙は破滅でした。ヘロデにとって、この対応は成功でした。羊飼いに、目先の利益はありませんでした。けれど、歴史全体を通して見ると、十字架の贖いと復活という、福音が明らかにされます。偉大な神様の救いのシナリオが、完全に成し遂げられていたことを知るのです。

沈黙は、神の愛の世界への入り口でした。ヘロデの態度は愚かな罪の結末を晒しました。羊飼いは、人間が受ける最高の喜びとは何かを教えてくださいました。

神の御心は、どんな人間の策略に妨げられることはなく、世界を愛で覆うのです。